

令和7年度 第1回定例研修会 「構音障害」分科会 記録

テーマ「ICTを使った構音指導～グーグルワークスペースを使って～」

発表者 吉田町立自彊小学校 通級指導教室「ことば」担当

教諭 渡邊 威

1 発表者より発表

- ・ ICT を言語通級に取り入れたきっかけ
- ・ google workspace の良さ、チャットスペースの活用
- ・ 自身の構音について振り返る指導
- ・ 構音を汎化させるための指導
- ・ ICT を使った担任・保護者との連携



2 質疑応答

○ネット環境について

- ・ 町内すべて同じ Wi-Fi 環境になっているので、児童が持ってきたタブレットを通級で使うことができる。

○担任との連携について

- ・ 全員に連絡ファイル（紙媒体）とクラスルーム（チャット）を使っているが、クラスルームでやり取りをする場合が多い。

○データの保存に関して

- ・ チャットスペースは名前の変更をして継続利用している。退級後は消去。

3 協議

○ICTを使った指導について

- ・ 何のために使うか意図を明確化して使った方がよい。
- ・ 学習支援、リズム、ルーレットアプリを活用している。
- ・ ボイスメモを使うと音の波形が出て、視覚からも分かりやすい。
- ・ 舌や口の動きを撮って見せることで視覚から動きを意識させる。
- ・ デイジー教科書（読み上げ機能、読むところに色がつく機能）の活用。



○汎化につなげるための指導について

- ・ 早口で言えるようになることが汎化につながるのでストップウォッチでタイムを計っている。
- ・ 自分の音を聞ける、意識できる子は早く改善する。
- ・ 話すことを毎回取り入れている。誤りを指摘した方が汎化につながる。
- ・ 録音をして正しく発音できているか、確認するようにしている。

令和7年度 第1回定例研修会 「言語発達遅滞」分科会 記録

事例検討「言葉が全体的にはっきりしない園児に関する検討」(年長 男子)

事例提供者 富士市立田子浦幼稚園 幼児ことばの教室 担当

教諭 佐野 景子

○事例検討で出た意見

① 実態把握のために行っていること

- ・ 保護者と園に、園児の困り感を聞く。
- ・ 園訪問で園児の様子を観察する。
- ・ 市町村によって対応は異なるが、STが田中ビネー知能検査を行ったり、ことばの教室担当が構音検査や絵画語彙発達検査などを行ったりする。
- ・ 発達支援センターと情報を共有する。
- ・ 1歳半健診や3歳児健診の結果を保護者に書いてもらう。
- ・ 掛川市は、4歳児に一斉検査を行い、スクリーニングをする。



② 指導内容の工夫

- ・ 楽しい会話で、話したいという意欲を高め、信頼関係の構築をする。
- ・ スモールステップで達成感を感じさせる。
- ・ 絵カードなど、視覚に訴える教材を使用する。
- ・ 言葉を動作化する。
- ・ ひも通しや工作等、手先の巧緻性を高める活動を行う。
- ・ グループ活動や、担当者とのふれあい遊びで、人との関わり方を学ぶ。
- ・ 好きなキャラクターや遊びから導入する。
- ・ 発語がない場合は、「手伝って」「教えて」などのヘルプサインを教える。

③ 保護者の理解を得るためにどんなことをしているか、終了の目安等

- ・ 保護者に授業を参観してもらい、授業後に活動のねらいをしっかりと伝える。
- ・ 園児の困り感、子育ての悩みなどの保護者の話を共感しながら聞く。
- ・ 終了の目安は、市町村によって違う。発音ならば、会話で正しい発音ができるようになってから。言語発達遅滞の退級判断は難しい。



令和7年度 第1回定例研修会 「吃音」分科会 記録

テーマ「番町小通級指導教室による吃音指導の取り組み」

発表者 静岡市立番町小学校通級指導教室（言語）担当

池谷元・山口舞・齊藤夏澄・青木教美・高木美仁

1 発表者より発表

- ・子どもに対する指導 指導の中で大切にしていること、指導の実践
- ・保護者支援 保護者同士の交流、情報提供
- ・理解啓発 学級の子どもたち、学校職員、一般社会

2 質疑応答

- ・市内言葉の教室合同指導「吃音の集い」には何人くらい集まっているのか？
→学校5校から参加、子供10～15名＋保護者。
- ・保護者の吃音学習会の形式はどのようなものか？
→ことば担当者がグループに入って話し合いをする。



3 グループでの協議（3名程度の8グループでの話し合い、全体での発表）

「吃音児の在籍校・学級（担任・児童）への働きかけ」「指導内容について」
「児童の吃音の受けとめについて、有効だった指導」

- 公開授業をオンラインで行った。在籍校訪問では、吃音について紙面を持参し説明している。担任とのやりとりが難しいと感じることがあった。
- 小学生の対処法を幼児の保護者が知ること、親の不安感が減るのではないかと。吃音パンフレットを渡し、親へのアドバイスをを行っている。
- 担任にアンケートを行い、担任の考え方を知った上で話し合いをするとよい。また子どもには、毎週アンケートを取ることで、細かな変化に気づくことができる。吃音チェック、体作り、「きつおんくんものがたり」を読む、楽な話し方を見つける、かるたを作る、言語関係図を作る、などを行っている。
- 個別指導とグループ指導の両方を行っている。吃音者と出会うことが大切。保護者同士も悩んでいるので話せる場があるといい。
- 在籍校訪問や指導公開などは、市全体で動けるといい。指導では、体育館などで体を使って触れ合うと本音が出てくる。

4 発表者より

吃音を正しく理解し、一人一人の思いに寄り添う通級指導教室でありたい。吃音は個人的なものなので悩みは尽きない。悩んだら誰かに相談できるように導いていきたい。

令和7年度 第1回定例研修会 「学習」分科会 記録

「学習のレディネス～幼児言語教室だからできること～」

事例提供者 静岡市特別支援教育センター内幼児言語教室

亘 裕美・池田式部・杉井知子・山梨夏織

- 幼児期に身につけておいた方がよいと思うこと
 - 指導の中で実践して効果が感じられたこと
- 上記2点をテーマにグループ討議が行われた。



＜グループ討議で出た意見＞

- ・言葉が出ない子は不器用な子も多い。人と関わること、会話することが楽しいと思えるような経験が大切。年齢によって状況が違う。課題の設定を低めにしてやる気を出させるとよい。
- ・異学年でもグループ指導を組めるのが通級指導の良さ。少人数で話せる経験を積ませる。
- ・聞く力が弱い子が多い。興味があることを見たり聞いたりすることで聞く力がついてくる。少人数から段階を追うとよい。三語文から聞く、聞く聞くドリルなどを使うとよい。
- ・やらずに諦めてしまう子が小1で多い。こうした子には①やってみたいこと、ワクワクすることを作る。②人と関わったら何か面白いことがあるかもと思わせる。と段階を踏む。絵本の活用、まねっこ遊び、オノマトペ、不安のスケールなどを使うとよい。また、幼小で連携できたり、情報を共有できたりするとよい。
- ・落ち着きがない子は、複数の指示を一度にできないので、一つずつこなすようにする。一つ一つこなすことでできる体験を増やすとよい。また、保護者にも本人の特性を理解し、今できていることを理解してもらうとよい。
- ・指先の動きが不器用な子が多い。消しゴムで上手に消せない。自分の名前が書けない。こういう子たちに、ラッシュンペンで字を書かせたり、風船バレーをしたりすることで感覚をつかませている。
- ・体幹の力はとても大切。体の動きの練習を取り入れることで発音や改善したり、口の形が滑らかになったりする。
- ・自分の特性を理解し、何が強みで何が弱みなのか自分でもわかるようにする。自己理解が大切。
- ・幼稚園は、年齢によって状況が違う。発達の段階を飛びこさない、積み残さないことが大事。



事例検討 「指導計画の立て方を考える」

事例提供者 浜松市立気賀小学校 通級指導教室(LD等)担当 教諭 小出千恵

1、事例説明 小学校5年生 男児

- ・ASD ADHDの診断あり。投薬治療中。
- ・WISC-Ⅳの結果は高いが、凸凹あり。
- ・テストの直しができず破る。徒競走で抜かされると泣く。
- ・できない部分を感じて、否定的な言葉を発する。



2、質疑応答

- ・児童の在籍学級の様子・・・大変よく対応してくれている。友達も優しい。
- ・家庭の状況・・・両親とも本児を受け入れ、よい対応をしている。
- ・本児の好きなこと・・・手先を使って作ることは得意である。
- ・将来の夢・・・父親の仕事の影響で、建築関係の仕事につきたいと言っている。
- ・不適切な行動の頻度・・・頻繁ではない。しかし、5年生なので目立つ。

3、個別検討

①実態把握のポイント②目標の設定③指導内容・方法という視点で、個人で検討。

4、グループ検討・・・地区や経験年数を考慮して4人グループを作り、グループで検討。

【グループで出された意見】

実態把握	「自己肯定感の低さ」「イライラしてしまう」「失敗の受け入れ×」「衝動的」
目標	「自分の良さを知る」「次の行動へ移る」「ネガティブな自分を受け入れる」
指導内容	「ボードゲームで『しかたない』を知る」「自分を知る」「リフレーミング」「脱力の練習」

5、発表(3グループ)

○実態把握・・・「感情コントロール活動⇒自己肯定感の低さ」「他人の価値観のみの自己評価」

○目標の設定・・・「今のままでいい、を感じる」「自己理解」「自分軸(自分のよいところ)を知る」「イライラが爆発する前の自分を知る」「できない自分を受け入れる」

○指導方法・・・「他者からの視点でものを見る」「以前の自分との違いを見つける」「大人とのよい関わりをもつ(ゲーム等を一緒に行う)」「多角的な視点で見る」